

令和6年度以降 学科到達目標(評価指標) 専門的能力【地域生活支援学科食健康コース】

※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

コンピテンシー	到達目標	ベンチマーク 初歩的 Level1	マイルストーン 萌芽的 Level2	マイルストーン 達成的 Level3	キャップストーン 模範的 Level4 以上
I (態度・志向性)	<p>〔地域生活支援学科共通〕</p> <p>1) 食と福祉と多文化にまたがる複合的分野に対して、自ら積極的に興味を持って学修でき、「知識と技術の横のつながり」を人々への生活支援のために自律的に発揮できる能力を有している。</p>	<p>□地域で生活している人々への支援活動を行うことが、将来の自分の仕事であるとの自覚と意識を持っている。</p> <p>□人々の生活支援に対して、「食生活に関する分野」と「福祉生活に関する分野」と「多文化下の生活の多様性に関する分野」での知識と技術の横のつながりの必要性を認識し、その修得に興味を持つことができる。</p> <p>□人々の生活支援に対して、「いのち(生きること)の大切さ」と「くらし(安全で安心な日々の営み)の大切さ」と「人生(人が生れてから死ぬまでの各ライフステージ)のあり方」に興味を持って考えることができる。</p>	<p>□地域で生活している人々への支援活動の方法について、現在自分が学修している知識と技術を、ある程度具体的に対応させて考えることができる。</p> <p>□人々への生活支援活動に対して、自分が専門とする「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の各専門知識と技術を主体的に活用すると共に、他領域の人とのコミュニケーションや知識を複合化して、多様な対応ができる柔軟性を有している。</p> <p>□人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや生活嗜好およびライフスタイルに合わせて、学修した知識と技術を効果的に結び付けることを企画することができる。</p>	<p>□地域生活者への支援活動と地域の活性化活動に対して、自分が修得している知識と技術をどのように活かして貢献できるかを明確に示すことができる。</p> <p>□人々への生活支援活動に対して、自分が専門に学んだ「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の知識と技術を、他領域の知識と複合化してサポートすることに主体的に率先して具体的に対応ができる。</p> <p>□人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや生活嗜好およびライフスタイルに合わせて、学修した知識と技術を的確に適用して実践的な立案と計画を立てることができる。</p>	<p>□地域生活者への支援活動と地域の活性化への貢献に対して、自分が修得した専門の知識と技術をどのように活かせるかを明確に考え、自分の将来の職業としてのグランドデザインが描け、具体的な職種として明確に提示することができる。</p> <p>□地域の人々への生活支援活動に対して、自分が専門に学んだ「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の知識と技術を、他領域の知識や異なった分野の人と協調して複合的に活用して実践対応ができる。</p> <p>□地域の人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや多様な生活嗜好やライフスタイルなどに対応して、学修した知識と技術を的確かつ柔軟に適用して実践的に行動できる。</p>
	<p>〔食健康コース〕</p> <p>2) 食と栄養を目指す者としての自立心と他者との協調性を持って主体的に考え取り組むことができる。</p> <p>① 食と栄養に関する専門職域の仕事内容の理解ができている。</p> <p>② 自分がどういった食の専門職・栄養士になりたいか目標を持つことができる。</p> <p>③ 約束を守る、規則を守る、時間を見ながら行動できなど自己管理能力が備わっている。</p>	<p>□職業人としての専門職域の仕事内容に関心を持ち始め、将来自分がどのような食の専門職・栄養士になりたいかを考え始めている。</p> <p>□また自己管理面では不十分なためコントロールできず約束や規則の遵守、時間の使い方など他者に対して不利益を与えていることへの責任を認識し始めている。</p>	<p>□職業人としての専門職域の仕事内容を調べており、将来に向けて食の専門職・栄養士としての自立の心構えを持ち始め、抽象的ではあるが仕事内容や自分がどういった職業人になりたいのかなどをイメージで捉え考えることができている。</p> <p>□また自己管理面では不十分であるが集団の中で他者と協調性を持つことができている。他者に対して不利益を与えていることへの責任を痛感し自己管理能力を身につけるよう努力をしている。</p>	<p>□職業人としての自立の心構えを持ち、各方面からの仕事内容について情報を集めることで将来自分の食の専門職・栄養士像が具体的にイメージすることができている。</p> <p>□また自己管理面では集団の中で協調性を持つことができおり他者に不利益を与えることなく責任を持った行動ができている。</p>	<p>□職業人としての自立の心構えをしっかりと持っている将来自分がなりたい食の専門職・栄養士像が具現化され必要な知識や技能を身につけている。</p> <p>□また自己管理では十分に自己管理ができているため集団の中でリーダー格として積極的に他者に声をかけるなど模範となる行動ができている。</p>
	<p>〔食健康コース〕</p> <p>3) 健康と環境や社会に関心を持つことができる。</p> <p>① 健康と環境に関する社会的問題に興味を持つことができる。</p> <p>② 食物の栄養や食品の流通と消費について考えることができる。</p> <p>③ 食生活上の安全性の確保のあり方に関心を深めることができる。</p>	<p>□健康と環境や社会に関心を持ち始めているが健康と環境意識は低く社会への関心が薄い。</p> <p>□また食物・栄養に関する社会的問題等については少しずつではあるが考え始めている。</p>	<p>□健康と環境や社会に関心を持つことができているがまだ十分な理解が得られていない。</p> <p>□食物・栄養、食品の流通と消費と一連の流れについては自分自身の食に置き換えて体験することで関心を深めている。</p>	<p>□健康と環境や社会に関心を持つことで、食物・栄養に関する社会的問題に興味をもつことで食品の流通と消費について考えることができ食生活上の安全性の確保のあり方に関心を深めることができている。</p>	<p>□健康と環境や社会に関心を持つことで、食物の栄養はもちろんのこと生産から流通と消費までの食事情について理解ができるようになり食生活上の安全性の確保のあり方に関心を深めることで自分自身の食環境を見直すことができている。</p>
II (知識・理解)	<p>〔地域生活支援学科共通〕</p> <p>1) 地域の特性に密着した日常レベルでの衣・食・住を根幹とした生活科学分野と人文・社会・自然の各科学分野とを連携した複合的知識と技術を有している。</p>	<p>□地域の衣、食、住などのローカルな文化にも興味を持って学修でき、地域の人々への生活支援活動に役立てていくことを考えることができる。</p> <p>□一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)に興味を持って学修でき、それを地域の人々への生活支援活動に役立てていくことを考えることができる。</p> <p>□地域文化と異文化を融合して、シームレスな国際化社会で活躍していくことの重要性を理解できる。</p>	<p>□地域の衣、食、住などのローカルな諸文化について学修した内容を理解できおり、地域の人々への生活支援活動にどのように役立てていくかを具体的に示すことができる。</p> <p>□一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)について学修した内容を理解できおり、地域の人々への生活支援活動にどのように役立てていくかを具体的に示すことができる。</p> <p>□地域の衣、食、住などのローカルな諸文化と人文、社会、自然科学分野の知識を連携して、地域の人々への生活支援活動に複合的に活用する方法を具体的に考えて示すことができる。</p>	<p>□地域の衣、食、住などのローカルな諸文化について学修した内容を、地域の人々への生活支援活動の方法として、ある程度実践的に活用することができる。</p> <p>□一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)について学修した内容を、地域の人々への生活支援活動の方法として、ある程度実践的に活用することができる。</p> <p>□地域の衣、食、住などのローカルな諸文化と人文、社会、自然科学分野の知識を連携して、地域の人々への生活支援活動に活用する方法として、ある程度複合的に活用して実践することができる。</p>	<p>□地域のローカルな生活特性と人々の多様な考え方やライフスタイルを尊重しながら、身に付けた豊富な教養知識を自然態で活用して、生活支援の専門職業人として社会で活躍できる自信がある。</p> <p>□修得した教養を実践的に活用し、ホスピタリティ精神(おもてなしの心)溢れる柔軟な対応で、「食」や「福祉」や「多文化」の各分野での専門職業人として、社会貢献と地域の人々への生活支援活動ができる具体的な職業へのグランドイメージ(人生設計)を示すことができる。</p> <p>□地域の衣、食、住などのローカルな諸文化知識と人文、社会、自然科学分野の基礎教養知識を複合的に連携しながら、地域の人々の生活の質(QOL: Quality of Life)の向上を目指して、生活支援の専門家(プロフェッショナル)としての具体的な職業に就く強固な意志を持っている。</p>
	<p>〔食健康コース〕</p> <p>2) 栄養と健康について専門領域の基本的理解ができている。</p> <p>① 社会生活と健康、人体の構造と機能について理解ができている。</p> <p>② 食品の栄養特性と衛生管理及び栄養の意義について理解ができている。</p> <p>③ ライフステージ別栄養のあり方と各種疾病における基本的な食事療法について理解ができている。</p>	<p>□栄養と健康の各専門領域の基本的理解として社会生活と健康については公衆衛生の定義、人体の構造と機能、運動がもたらす身体への影響、基礎的事項として食品の栄養特性、加工や調理による食品成分の変化、食品の安全性と食品衛生、食中毒予防、栄養学の意義、栄養素の代謝、各栄養素の役割、ライフステージ別栄養のあり方、疾病の成り立ちについて理解するよう努めている。</p>	<p>□栄養と健康の各専門領域の基本的理解として社会生活と健康、人体の構造と機能については理解ができているが疫学的因果関係を分析・予防法までの理解は不十分である。</p> <p>□人体の構造と機能についてはほぼ理解しているが、運動がもたらす身体への影響や効果についての知識は未だ不十分である。</p> <p>□食品の基礎的事項と栄養機能は理解できおり、加工や調理による食品成分の変化、食品の安全性と食品衛生、食中毒予防、栄養学の意義と栄養素の代謝と各栄養素の役割と必要性についてはほぼ理解している。</p> <p>□ライフステージ別栄養のあり方、疾病の成り立ちと適切な栄養管理については両者を関連付けて考えることはできないが各々の栄養管理については概ね理解はできている。</p>	<p>□栄養と健康の各専門領域の基本的理解として社会生活と健康について疫学的因果関係を分析・予防法まで理解できるようになったが、国民の健康を把握するまでには至っていない。</p> <p>□人体の構造と機能と運動がもたらす身体への影響やその効果をほぼ理解している。</p> <p>□食品の基礎的事項と栄養機能や加工や調理による食品成分の変化を概ね認識している。</p> <p>□食品の安全性と食品衛生、食中毒予防について理解しており、栄養素の代謝について概ね述べることで、栄養学の意義と各栄養素の役割と必要性についても理解している。</p> <p>□ライフステージ別栄養と疾病の成り立ちを適切な栄養管理と結びつけて考えることができる。</p>	<p>□栄養と健康の各専門領域の基本的理解として社会生活と健康について知識と理解ができているため疫学的因果関係を分析・予防法を考えることで国民の健康を把握し維持増進に努めることができる。</p> <p>□人体の構造と機能と運動がもたらす身体への影響やその効果を理解している。</p> <p>□食品の基礎的事項と栄養機能が理解でき、加工や調理による食品成分の変化が認識できる。</p> <p>□食品の安全性についても十分な知識を得ているため食品を衛生的に扱うことで食中毒予防にも努めることができる。</p> <p>□栄養素の代謝と各栄養素の役割と必要性を理解し、栄養学の意義を述べることができる。</p> <p>□ライフステージ別栄養と疾病の成り立ちを栄養管理に結びつけることができる。以上のことから各専門領域を学び横断的に理解することができる。</p>
	<p>〔食健康コース〕</p> <p>3) 食の各分野の対象者特性に応じた食支援のねらいや内容、方法を理解している。</p> <p>① 対象者の実態を把握し問題点を抽出できる。</p> <p>② 健康や栄養に関する知識や技術を駆使して対象者に合わせて必要な情報を提供することができる。</p>	<p>□対象者の特性を知ることができる。</p> <p>□また、健康や栄養に関する情報を収集し整理することができる。</p>	<p>□対象者の特性を知り実態を把握できる。</p> <p>□また、問題点があるのか調査ができる。健康や栄養に関する情報を収集、整理、分析し対象者に必要な情報を準備することができる。</p>	<p>□対象者の実態を把握し問題点を明確にできる。</p> <p>□また、問題点を解決するために必要な情報を収集・整理・分析し、対象者に合わせた食支援をするために具体的な目標を設定することができる。</p>	<p>□対象者の実態を把握し問題点を明確にできる。</p> <p>□また、問題点を解決するために必要な情報を収集・整理・分析し、対象者に合わせた目標を設定して具体的な食支援を計画することができる。</p>

	③対象者の状態に応じた食支援を考えることができる。				
III (技能・表現)	〔地域生活支援学科共通〕 1) どのような状況の変化と人々にも対処できる食と福祉と多文化にわたる汎用性のある知識と幅広く活用できる技能および柔軟な人間性を持った有機的な生活支援ができるコンシェルジュにふさわしい能力を有している。	<input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識あるいは技術の他にも、連携活用できる他領域の学修への興味を持っている。 <input type="checkbox"/> 地域の人々への生活支援活動は、単領域の専門家(プロフェッショナル)と関連する多くの異なる分野の各専門家との協力が必要であることを理解している。 <input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域の専門家とも協調しながら、自分のプロとしての知識と技術を活用して、地域の人々への生活支援がしたいとの強い意志を持っている。	<input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の学修もしている。 <input type="checkbox"/> 地域の特性と人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への生活支援活動ができるための学修の準備が進んでいる。 <input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達とも協調しながら、地域の人々への生活支援のプロとしての知識と技術の修得が順調にできている。	<input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の基本的知識および技能などを含めて広範な支援能力が身に付いてきている。 <input type="checkbox"/> 地域の特性とその地で生活している人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への広範な生活支援活動ができるための能力が身に付いてきている。 <input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達とも協調しながら、地域の人々への生活支援の汎用的専門家(コンシェルジュ)としての知識と技術の修得も順調にできている。	<input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の根幹とする知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の基本的知識および技能などの修得ができており、専門職業人として、および汎専門的立場での広範な生活支援能力が身に付いている。 <input type="checkbox"/> 地域の特性とその地で生活している人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に関連する異なる領域の知識と技術を援用しながら、人々への広範な生活支援活動ができるコンシェルジュとしての自覚も持っている。 <input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達共、自己の専門性を活かしながら協調連携して、地域の人々に対して多様な生活支援が汎用的専門家(コンシェルジュ)としても可能な広範な知識と技術の修得と蓄積ができてきている。
	〔食健康コース〕 2) 食の現場で求められる専門的技術の基本を身につけ多様な場面で展開できる。 ①基本的な調理技術が身についている。 ②旬の食材や季節感を大事にし、多様な場面に応じた食事計画による給食の運営ができる。 ③対象者の健康や食生活の問題点を把握し、それらを解決するための方法を計画し実践できる。	<input type="checkbox"/> 基本的な調理用語が理解でき、調理に必要な知識や技術を身につけようと努力できる。 <input type="checkbox"/> また、旬の食材や季節感を大事にした食事について理解している。	<input type="checkbox"/> 基本的な調理用語が理解でき、調理に必要な知識や技術が身についている。 <input type="checkbox"/> また、旬の食材や季節感を大事にした食事計画ができる。	<input type="checkbox"/> 調理に必要な知識や技術を身につけ、旬の食材や季節感を大事にした食事計画ができる。 <input type="checkbox"/> また、対象者の健康や食生活を考慮した給食の運営について考えることができる。	<input type="checkbox"/> 調理に必要な知識や技術を身につけ、旬の食材や季節感を大事にした食事計画ができる。 <input type="checkbox"/> また、対象者の健康や食生活を考慮しながら多様な場面に応じた給食の運営ができる。
	〔食健康コース〕 3) 対象者の立場に立ち、対象者に応じた食支援(食指導)ができる。また、適切に食環境を整備できる。 ①対象者への話しかけや説明が適切にできる。 ②対象者の生活習慣や食習慣、食嗜好など様々な面を考慮して総合的に支援を展開できる。 ③対象者が健康的で安全な食生活を送るために適切に食環境を整備できる。	<input type="checkbox"/> 対象者への話しかけができる。 <input type="checkbox"/> また、対象者の生活習慣や食習慣、食嗜好などを調べることができる。	<input type="checkbox"/> 対象者への話しかけや説明ができる。 <input type="checkbox"/> また、対象者の立場に立ち、生活習慣や食習慣、食嗜好など様々な面を考慮した食支援(食指導)について考えることができる。	<input type="checkbox"/> 対象者と相互コミュニケーションがとれる。 <input type="checkbox"/> また、対象者の立場に立ち、生活習慣や食習慣、食嗜好など様々な面を考慮した食支援(食指導)ができる。 <input type="checkbox"/> さらに対象者が健康的で安全な食生活を送るために適切な食環境とは何かを考えることができる。	<input type="checkbox"/> 対象者とスムーズな相互コミュニケーションがとれる。 <input type="checkbox"/> また、対象者の立場に立ち、生活習慣や食習慣、食嗜好など様々な面を考慮した食支援(食指導)ができる。 <input type="checkbox"/> さらに対象者が健康的で安全な食生活を送るために適切に食環境を整備できる。
IV (行動・経験・創造的思考力)	〔地域生活支援学科共通〕 1) 生活の要素を科学的に分析・把握することにより生活全般を見渡せる俯瞰能力を身につけており、経験をもとにした創造的発想ができる。「マルチに学び、マルチに活動する」生活支援のプロフェッショナルにふさわしい能力を有している。	<input type="checkbox"/> 地域の活性化と生活支援活動には、人々の具体的な生活実態についてのデータを科学的に分析する必要があることが理解できている。 <input type="checkbox"/> 地域の人々のライフスタイルは、非常に多様化しており、その一端のみを垣間見るだけでは把握できなく、より広範な生活全般(いのち、くらし、人生)を広い視野から俯瞰的に見渡す能力が必要であることへの認識ができてきている。 <input type="checkbox"/> 現在学んでいる基本的知識と技術を実践的生活支援活動に活かすためには、経験知と経験を下地にした技能が必要であることへの認識を持っている。	<input type="checkbox"/> 地域の活性化と人々への生活支援活動を行うためのデータの収集方法および科学的に分析する手法などの個々具体的な方法を使用することができる。 <input type="checkbox"/> 地域の人々の非常に多様化したライフスタイルを、「食」と「福祉」および「多文化」を基盤とし、さらに「いのち(生命)」と「くらし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを複合的に組み合わせて俯瞰的に対応できる能力の修得ができつつある。 <input type="checkbox"/> 現在、座学(主に講義授業)をもとに学んでいる基礎的知識と技術に加えて、演習や実習などから得る体験的知識と技能などが身に付き始めている。	<input type="checkbox"/> 地域の活性化と人々への生活支援を科学的見地から行うための広範な分野からのデータの収集と分析活動の具体的な計画の立案と企画ができる。 <input type="checkbox"/> 地域の人々の非常に多様化したライフスタイルに対応して支援活動を行うために、「食」と「福祉」および「多文化」を生活基盤とし、これに「いのち(生命)」と「くらし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを効果的に組み合わせて多面的(マルチ)に考え、学修に臨むことができる。 <input type="checkbox"/> 学内、特に学外での地域連携活動を活動フィールドとした演習や実習授業で体験的に修得した実践的知識と技能などが着実に身に付いている。	<input type="checkbox"/> 地域の活性化と人々への生活支援を科学的見地から行うための広範な分野からのデータの収集と分析から得た結果を精密に考察した上で、さらに自分なりの考えで人々へのより効果的な支援活動に乗り出すための斬新な発想ができる。 <input type="checkbox"/> 地域の人々の非常に多様化したライフスタイル志向に柔軟に対応して支援活動を行うために、「食」と「福祉」および「多文化」を生活基盤とし、これに「いのち(生命)」と「くらし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを効果的に組み合わせて多面的(マルチ)に実践行動することができる。 <input type="checkbox"/> 学内、特に学外フィールドでの地域活性化活動および人々の生活の質(QOL:Quality of Life)の向上を目指して、生活支援の専門家(プロフェッショナル)として、実社会での活躍ができる実践能力を持っている。
	〔食健康コース〕 2) 食育活動を通して地域貢献できる力を身につける。 ①学内外の食育活動に関心を持つことができる。 ②学内外の食育活動に積極的に参加できる。 ③ニーズに応じた食育活動を計画・実施できる。	<input type="checkbox"/> 学校行事や学外での食育活動に関心をもち、参加することができる。 <input type="checkbox"/> 地域の現状を把握することができる。	<input type="checkbox"/> 学校行事や学外での食育活動に関心をもち、積極的に参加することができる。 <input type="checkbox"/> 地域の現状を把握し、必要な食育活動について考えることができる。	<input type="checkbox"/> 学校行事や学外での食育活動に関心をもち、積極的に参加することができる。 <input type="checkbox"/> 地域の現状を把握し、必要な食育活動についてまとめ、実施計画を作成することができる。	<input type="checkbox"/> 学校行事や学外での食育活動に関心をもち、積極的に参加することができる。 <input type="checkbox"/> 地域の現状を把握し、ニーズに応じた食育活動を計画・実施できる。 <input type="checkbox"/> 必要な情報を収集・整理・分析し、以後の活動に活かすことができる。
	〔食健康コース〕 3) 他者と信頼関係を築き、協働できる。 ①グループワークができる。 ②報告・連絡・相談ができる。 ③コミュニケーション力がある。	<input type="checkbox"/> グループ内で自分の考えをもつことができる。 <input type="checkbox"/> 報告・連絡・相談の必要性が理解できる。 <input type="checkbox"/> 相手や場面に応じた接し方の必要性が理解できる。	<input type="checkbox"/> グループ内で自分の考えをもち、発言することができる。 <input type="checkbox"/> 報告・連絡・相談の必要性を理解し、実践する努力をしている。 <input type="checkbox"/> 相手や場面に応じた接し方の必要性を理解し、実践する努力をしている。	<input type="checkbox"/> グループ内で自分の考えをまとめて発言し、他者と意見交換をすることができる。 <input type="checkbox"/> 報告・連絡・相談の必要性を理解し、実践することができる。 <input type="checkbox"/> 相手や場面に応じた接し方の必要性を理解し、実践することができる。	<input type="checkbox"/> グループ内で積極的に意見交換をすることができる。 <input type="checkbox"/> 他者の意見を聞き、自分の考えを深めることができる。 <input type="checkbox"/> 報告・連絡・相談の必要性を理解し、正しく実践することができる。 <input type="checkbox"/> 相手や場面に応じた接し方の必要性を理解し、正しく実践することができる。 <input type="checkbox"/> 誰とでもコミュニケーションを取ることができる。